



平成 29 年 (2017 年) 3 月 15 日

彦根市長 大久保 貴 様

彦根市都市計画マスタープラン改定委員会

会長 石井 良



彦根市都市計画マスタープラン (案) 改定に関する提言

本委員会は平成 26 年 12 月 17 日付彦都第 582 号により市長から依頼のありました彦根市都市計画マスタープラン改定について、計 8 回改定委員会を開催し検討を進めて参りました。今回の改定については、今後の成熟社会に対応したマスタープランとするため、コンパクトなまちづくりの実現に向けた方向性を示しております。また、この検討については、委員会での検討とともに意見公募を計 2 回実施し、市民の参画も図りながら概ね 3 年の期間を掛けて進めたものです。

ついては、この改定案を本委員会の検討結果として、別添のとおり会長としての見解を添えて市長に提言します。

彦根のまちづくりの覚醒－彦根市都市計画マスタープラン案の提言にあたって－

平成 27 年 1 月 30 日に第 1 回委員会を開催し、約 2 年間にわたって 8 回の委員会を経て、ようやく彦根市都市計画マスタープラン案をまとめることができました。この間、熱心に議論を頂いた 18 名の委員、事務局、コンサルタントの皆さまには厚く感謝の意を表します。

本来はもっと早くまとめる予定でしたが、平成 27 年度に「彦根市まち・ひと・しごと総合戦略」、「彦根市総合計画」の策定があり、その整合を図るために時間を要しました。しかしながら、結果的には、この間に都市交通マスタープランや立地適正化計画の策定、彦根国体に関わる総合運動公園、金亀公園、市民体育センターの整備計画の策定、河原町芹町地区伝統的建造物群保存地区の指定、都市計画道路の見直し、稲枝駅周辺まちづくりの具体化があり、これらの計画を盛り込むことができて、むしろ良かったのではないかと考えています。

今回は平成 19 年 3 月に策定された都市計画マスタープランの改定という位置づけであり、大きく変更する必要はないのではないかと意見もありましたが、順調に増加してきた彦根市の人口も今後減少することが確実に見込まれ、前の計画とは大きく異なる人口減少時代における都市計画マスタープランになったかと思えます。

市民公募委員が 7 名もおられますので、会長としては公募委員の皆さんの意見をできるだけ聞くことに留意しました。公募委員の皆さんは市外での経験も長く、彦根市への思い入れも強く、さまざまな角度から多くの意見を頂きました。都市計画に関して戦略性がないのではないかの指摘も多く頂きました。あくまでもマスタープランなので、基本的な指針の表現しかできないとも思いますが、私自身ももっともだと思えることが多くあり、できるだけ反映するように心がけました。

本プランは、人口減少時代の都市計画マスタープランとして、次の特徴を持っています。

①コンパクトな都市づくりへの転換

彦根市のこれまでの発展は旧市街地から機能を新市街地に分散させることによって実現してきましたが、今後は都市機能を集約して質的充実を図るまちづくりを進めることを明確化しました。

②地域のまちづくりの推進

彦根市を 7 地域に分け、まちづくりのコンセプトと主要事業を明らかにしました。これは地域別に住民と協働して個性的なまちづくりを進めていきたいというメッセージでもあります。

③計画の進行管理

プランは概ね 20 年後の将来を見据えた平成 42 年を目標とする長期の計画です。この間さまざまな環境変化もあることも予想され、毎年度主要事業の進捗状況を公表するとともに、適切に見直しをすることとしています。アクティブなプランになったかと思えます。

彦根市は平成 36 年に第 79 回国民体育大会の主会場となり、多くのお客さまをお迎えすることとなります。本プランには、コンパクトなまちづくりの実現に向けて、新たな事業も多く盛り込んでいます。彦根国体を契機に、彦根市が市民とともにまちづくりにおいても新しいことに挑戦し、さらに魅力を高め、住みたい、訪れたいまちになることを期待します。

平成 29 年 3 月

彦根市都市計画マスタープラン改定委員会会長 石井 良一 (滋賀大学教授)